

2. 事業の概要と成果	
(1) プロジェクト目標の達成度 (今期事業達成目標)	【ルサカ州ルサカ郡チパタ地区およびチェルストン地区において結核の早期発見・診断・治療・患者支援体制が強化される】というプロジェクト目標に対し、1年次、プロジェクトサイトでの結核の検査数は2017年の6,184名から、9,964名に飛躍的に増加した。チャザンガ地区で第4四半期から始まった地域啓発に参加した地域住民は3,354名を記録した。結核の治療には通常半年かかることから、同地区での治療成績の推移は2年次以降に評価する。 事業目標の達成状況はプロジェクト期間全体を通じて評価するが、1年次は、チャザンガ地区の地域住民に啓発活動が行われることと、対象施設での結核の検査数が増加しても治療成績が維持されることを目指した。
(2) 事業内容	1年次後半の活動状況を以下に示す。 1. 保健医療施設での結核対策の強化 ●X線装置の供与 9-10月、カリングリガヘルスセンターにX線装置を設置した。取り付けには1週間ほど要した。郡保健局医療機器技師が、業者（医療機器エンジニア）の指導のもと組み立て、配線、作動確認を実地で学んだ。 同施設には放射線技師1名が着任した。放射線技師はアプリケーション研修を受講し、装置の基本操作を習得した。サービス開始にあたり、放射線防御委員会（RPA）の認可を受けた。郡保健局や施設との協議の結果、持続継続性を考慮し、X線サービスは一律40クワチャで提供されることになった。画質の良さや立地の良さから、近郊の医療施設にも認知されるようになり多くの利用者が訪れている。 10月、同施設の譲渡式を行った。式はUSAIDとの共催で、保健医療従事者向け結核スクリーニングキャンペーンの開幕式と合わせて執り行われた。 ●X線撮影研修の実施 1月、ルサカ郡内5施設の放射線技師計14名が、3日間の胸部X線写真撮影研修に参加した。研修ではX線撮影の原理を復習し、患部や装置に適した撮影技術を学んだ。フィールドトリップとして複数の医療施設を訪れ、異なるタイプのX線装置の撮影技術を学んだ。 ●現場指導監督監理の実施 10月、郡保健局と共同でテクニカルサポート・スーパービジョン（現場指導監督監理）を実施した。結核担当官等からなる郡保健局チームがプロジェクトサイトを含む計8施設を訪問し、結核サービスを評価するとともに、結核外来看護師らへ記録報告業務の助言、指導を行った。業務の改善状況は郡レビュー会議、郡結核レビュー会議、プロジェクトによる定例データ収集を通じてフォローアップされた。 ●郡レビュー会議を実施 11月、ルサカ郡保健局の郡保健サービスレビュー会議の開催を支援した。

●郡結核レビュー会議の実施

2月、プロジェクト対象サイトを含む郡内8施設を対象に、結核データレビュー会議を実施した。課題である活記録報告業務の改善を目的に、プログラム最終日にフィールド視察を取り入れた。フィールド視察では、パフォーマンスの対照的な2施設を取り上げ、比較し、記録・報告業務の良い点、改善点の洗い出しを行ったり全体で改善策を議論したりした。意見交換では、報告書を作成するタイミングでデータの検証を行ってはどうか、苦手意識を克服するにはどうしたらいいか等の意見が出された。郡保健局の主導する現場指導監督監理とは異なり、医療従事者間の相互評価という手法は郡保健局としても初めての試みであったが好評だったので2年次も継続したい。

●喀痰搬送状況のアセスメント

結核の治療専門施設であるチャザンガヘルスセンターでは喀痰検査結果報告の遅延がたびたび問題となっていたことから、患者が喀痰サンプルを提出してから再び結果が届くまでの過程を観察し、時間を計測した。その結果、検査室で結果が出てからチャザンガヘルスセンターに届くまでの時間が長くかかっていることが分かった。この結果は関係者に共有され、検査結果報告の遅延の原因や要因を話し合った。改善策のうちいくつかは実践されている。

2. 地域での結核対策の強化

●結核ボランティア育成研修の実施

10月、チパタサブ郡の近隣保健委員会メンバー50名と環境衛生士(Environmental Health Technicians、ボランティアが地域活動を行う際、地域とボランティアの仲介役、指導的立場にある医療従事者)を対象に、NHC(近隣保健委員会ガイドライン)に関するオリエンテーションを実施した。

●結核ボランティアエクスチェンジビジット

1月、2度目となるエクスチェンジビジットを開催した。チョングウェ郡病院、チョングウェ郡RHCを訪れ、施設でのボランティア活動の実際を観察し、円滑な活動実施に向けた意見交換が行われた。特に、チャザンガヘルスセンターのボランティアグループは経験が浅いため、メンバー間のチームワークを育み、執行委員のリーダーシップを強化することの大切さを学んだ。

●結核ボランティアによる予防啓発、患者支援

10月から結核ボランティアによる地域啓発や患者支援が開始された。2月、儀礼殺人や毒ガス散布騒動を発端に国内の治安状況が悪化したため、戸別訪問による予防啓発を中断した。不審者に間違われないように、ボランティアにはIDを発行した。当会スタッフがフィールドに出る際は必ずボランティアが同行することで、不審者に間違われまいと気をつけた。また、3月に入ると新型コロナウイルス感染症例が報告され始めた。保健省の指示で集会形式の啓発活動を中断せざるを得なくなった。結果的に、3月以降の活動は、ヘルスセン

ターでの患者対応と健康教育の実施、結核患者の家庭訪問という個別活動に限定された。(主な実績については、指標を参照)

●結核ボランティア月例会議

11月から3月、月例会議を開催し、個々の活動状況の把握、活動上の課題、成果、困難ケースの対応方法について関係者と協議した。

●データマネジメント研修

1月、結核ボランティアの記録報告用紙の誤記や理解不足が問題となったため、データマネジメント研修を行った。

●世界エイズデー、世界結核デー

12月、世界エイズデー国家式典に出席した。配布した200枚のTシャツは式典やその後の啓発活動で着用された。

3月、世界結核デー国家式典に出席した。新型コロナウイルス感染症予防のため、様々な地域をオンラインでつないでバーチャル式典が開催された。200枚のTシャツを作成し、ルサカ州・郡保健局を通じて関係者に配布された。期間中、保健省が日常診療における能動的結核患者発見促進キャンペーンを打った。カリングリガヘルスセンターがパイロットサイトに選ばれた。391人の外来・入院患者がスクリーニングされ、96名の結核疑い患者のうち8名の結核患者が治療を開始した。

●結核ボランティアの活動支援

11月、チャザンガヘルスセンターのボランティアを対象に小規模ビジネス、家庭菜園研修を実施した。家庭菜園研修では初めてルサカ郡農業局から講師を招聘した。

12月、各ボランティアの家庭菜園活動用の畑を下見し、希望作物の聞き取りと種の配布を行った。(農業や種は自己資金により調達した)。雨季の始まりと重なり、順調なスタートを切った。

1月、小規模ビジネス活動において、最初の8名が貸付を受けた。ヘルスセンターの看護師が、活動への熱意やボランティア活動歴を考慮しこの8名を選定した。(貸付原資は自己資金を用いた。)

2月、園芸においては既に葉物野菜の収穫を迎えたボランティアもいた。

●プロジェクトアニュアルレビューミーティング、TSアニュアルレビューミーティングの開催

2月、プロジェクト関係者を集め、アニュアルレビューミーティングとTSアニュアルレビューミーティングを開催した。1年次の活動を振り返り、2年次の活動計画の方向性を確認した。

(3) 達成された成果	本報告書では2019年第3,4四半期の結果を示す。 【指標1】1年次第3四半期2,414名、1年次第4四半期2,273名 【指標2】1年次第3四半期3.3%、1年次第4四半期2.1% 【指標3】1年次第3四半期未実施、1年次第4四半期2 【指標4】1年次第3四半期98.7%、1年次第4四半期99.8% 【指標5】1年次第3四半期100%、1年次第4四半期100% 【指標6】1年次第3四半期－、1年次第4四半期3,542、 【指標7】1年次第3四半期－、1年次第4四半期100% 指標6,7に関し、第3四半期に結核ボランティアの育成研修が完了し、第4四半期から実質的な地域活動を開始した。
(4) 持続発展性	ハード面では、1年次に供与・導入したX線撮影機材については、導入当初よりプロジェクト終了後の持続発展性を考慮して、使用方法だけではなく、導入業者による関連エンジニアへのメンテナンスをオリエンテーションの内容に含めることとし、2年次以降も適宜実施予定である。また、今後ザンビア国内で多く導入される機材と類似の機材を供与したため、使用方法、メンテナンスにかかる知識や経験を向上させていくことができる。維持管理についてはルサカ州保健局が責任を負い、直接メーカー等と協議・相談できる体制づくりを今後プロジェクトでサポートしていく。 ソフト事業である技術研修においては、日本人専門家から講義・実習を行う際には終了後に理解度を計る試験を行い、その後も研修参加者の間で勉強会を定期的の実施するなど知識の定着を図っている。 トリートメントサポーターの活動においても、プロジェクト終了後もトリートメントサポーターの新規養成・交代が円滑に進むよう、各保健所の看護師を指導者として養成することに力を入れている。また、ボランティアに対する技術研修の内容はTS Handbookとして取りまとめ、プロジェクト終了後であっても保健省がこれを用いて結核ボランティアに対し研修を実施することが可能なよう、差配する予定である。